

埼玉県立
歴史と民俗の博物館



彩の国埼玉県

THE A MUSEUM

Vol.3-3 第9号 2009.1.29

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

— 特別展 —

誕生 武蔵武士

平成21年1月31日(土)

> 3月15日(日)

武蔵武士が誕生した時代は古代から中世への転換点であり、さまざまな変化が起きた激動の時代でした。本展では、この時代の武蔵国内の特徴ある遺跡の出土遺物を中心に、多方面の資料から中世成立期の武蔵を探ります。

展示内容の御紹介

第1部 平将門の乱と武蔵

古代から中世への転換は10世紀から始まりました。930年代に起こった平将門の乱はその時代を映す鏡であると言われています。平氏一族の内紛を発端として始まった乱は、やがて国家への謀反へと発展しました。その過程で、将門は武蔵国守と足立郡司武蔵武芝の紛争を仲介するなど、武蔵とも関わりました。乱を通して、10世紀の武蔵の状況を文献史料を中心に紹介します。

主な展示資料：九条殿記・更級日記（宮内庁書陵部）、西角井忠正家系図（個人）

第2部 遺跡が語る中世成立期の武蔵

『扶桑略記』の昌泰3年（900）の「武蔵国強盗蜂起」という記事に象徴されるように、中央からみると、武蔵国の治安は相当悪かったようです。その群盗の正体は富豪の輩によって組織された倭馬の党と呼ばれる運送業を営む人々でした。地方には財をなした富裕層が多く生まれ、弱小農民との格差は広がる一方でした。その中で、自立した小武士団（党）がいくつも生まれ、「武蔵武士」と後世に呼ばれる武士団が誕生していきました。

主な展示資料：上里町中堀遺跡出土品（埼玉県教育委員会）、河越館跡出土品（川越市教育委員会）



写真1 神奈川県綾瀬市宮久保遺跡出土鉄製轡（神奈川県埋蔵文化財センター蔵）



写真2 重文 甲冑金具／号避来矢（唐澤山神社蔵、写真提供佐野市郷土博物館）

第3部 伝説の将軍・藤原利仁と藤原秀郷

上総介・武蔵守など東国の国司を歴任し、鎮守府将軍にもなった利仁、平将門を討ったことで有名な秀郷。武蔵各地に今日まで伝わる利仁や秀郷の伝説は、この2人を祖に持つ武士団によって創られ、伝えられたものが多くあります。そのいくつかの事例を紹介します。

主な展示資料：重文 長楽寺文書（太田市長楽寺）、秀郷草子（宮内庁書陵部）、重文 甲冑金具／号避来矢（唐澤山神社）、東松山市利仁神社経塚出土品（東京国立博物館）

第4部 描かれ・語りつがれる武士

絵巻物や絵画、物語などさまざまな手法で武士の活躍は後世に伝えられました。江戸時代には屏風などの室内装飾品に、武士を題材とした作品が多く作られました。私たちが現在持っている武士のイメージは、このように描かれ語りつがれてきた作品に大きく左右されています。

主な展示資料：平治物語絵詞／摸本、後三年合戦絵詞／摸本、源平合戦図屏風、犬追物図屏風（当館）



写真3 重文 京都市法住寺殿跡出土鍬形（木下美術館蔵、写真提供京都国立博物館）

第5部 武士の装いと信仰

武士の棟梁に代々譲られていく武器・太刀などが生まれる一方で、神仏に祈願するため奉納されたものや譲られずに愛用の品として墓に副葬された武具などもありました。ここでは武器・武具への思いや信仰を紹介します。

主な展示資料：重文 太刀 銘 長光（鶴岡八幡宮）、重文 京都市法住寺殿跡出土品（木下美術館）、重文 銅造阿弥陀如来 及 両脇侍立像（嵐山町向徳寺）



写真4 上里町中堀遺跡出土灰釉陶器
(埼玉県教育委員会蔵・同写真提供)

第6部 錦絵の中の将門と武蔵武士

江戸時代は歌舞伎や人形浄瑠璃などが人々の娯楽としてたいへん人気がありました。将門や武士を題材とした演目も多く上演されるとともに、錦絵の題材としても好まれました。色鮮やかな錦絵の中の将門と武蔵武士の姿を御覧下さい。

主な展示資料：歌川国貞／平親王将門・落合（歌川）
芳幾／百鬼夜行・相馬内裏（坂東市）、歌川豊国／
熊谷蓮生法師・歌川豊国／直実と敦盛、歌川豊国／
木曾六十九駅 大宮 秩父遠景 畠山重忠（当館）

中世成立期の武蔵を考えるために一堂に会したさまざまな資料を、ぜひ会場で御覧下さい。

(特別展示担当 水口 由紀子)



写真5 重文 銅造阿弥陀如来 及 両脇侍立像
(嵐山町向徳寺蔵)

関連事業

- 雑誌『武蔵野』創刊90周年事業 2月7日(土) 主催：武蔵野文化協会、共催：当館
 - ①講演会 「鎌倉武士と女性」 講師：彦由三枝子氏（政治経済史学会会長） 13時00分～14時30分
 - ②公演会 「平家物語を語る」
出演：千賀ゆう子氏（女優・演出家）、水野俊介氏（楽士）他 14時45分～15時45分
その他：1か月前から電話受付、先着順70名、参加費700円 ※定員に達したため、締め切りました。
 - 特別展講演会 3月8日(日) 13時30分～15時
「平将門の乱と武蔵国」 講師：川尻秋生氏（早稲田大学文学学術院准教授）
 - 友の会講演会 3月14日(土) 13時30分～15時
「源平内乱前夜の武蔵武士団」 講師：木村茂光氏（東京学芸大学教育学部教授）
- ※（2）と（3）は1か月前から電話受付、先着順150名、聴講無料
- （4）展示解説 2月1日(日)、15日(日)、28日(土)、3月15日(日) 各日13時30分から14時
 - （5）クイズに挑戦して武蔵武士博士になろう 会期中毎日実施
- ※（1）～（3）特別展を御覧になる場合は別途観覧料が必要、（4）～（5）特別展観覧料が必要

常設展示室

「一年を生きる — 埼玉の祭りと年中行事 —」

常設展示室第10室民俗展示室は、平成18年4月に、当館が埼玉県立歴史と民俗の博物館として新たにスタートするにあたって新設された展示室です。平成20年度からは、「一年を生きる（埼玉の祭りと年中行事）」をテーマに、県内各地の祭りや年中行事を紹介しています。



民俗展示室入り口付近

まず、展示室に入ると、鬼の顔などが素朴な図柄で描かれた大きな的がお客様をお迎えします。

これはオビシャと呼ばれる弓での射的を射る行事の用具です。年のはじめに、この的を弓矢で射抜くことで、一年間の無病息災と五穀豊穡、厄除けなどを祈願します。このように、かつての村に暮らした人々にとっては、農作物の豊作と、村内に恐ろしい疫病（伝染病）などの災いが入ってこないことが最も重要な願いとなっていました。

村に災いを入れないために、村の入り口に魔よけのつくりものを飾ることも行われました。このような魔よけを「防ぎ」といいますが、展示では川口市安行原で村境の木に飾りつける巨大な藁製の大蛇を御覧いただけます。

稲の病害虫は、農家にとって深刻な問題でした。越谷市北川崎では、大きな麦藁のタイマツに火をつけて村内の田を巡り、村の外へと害虫を送り出すという「虫送り」の行事が今も行われていますが、この巨大なタイマツも展示しています。

子どもの成長祈願や成人の祝いは、年中行事の中でも見られます。

展示では、県東部の大凧上げ習俗やさいたま市



毛呂山町の流鏝馬関係資料

岩槻区の古式土俵入り、そして川越市古谷本郷のほろ祭りや入間郡毛呂山町出雲伊波比神社の流鏝馬祭を紹介しています。

一年で人々が最も疫病の流行を恐れたのは夏でした。夏の穢れを祓い疫病を防ぐ行事には、大山講の太刀洗い、京都の祇園社(現、東山区八坂神社)を勧請した各地の祇園祭などがあります。その関連資料として、川越市連雀町の大山講資料や比企郡玉川村一ト市の夏祭りや巡行する獅子頭などの資料を展示しています。

この他にも、豊作を祈願した小正月のツクリモノを展示しました。この中のいくつかの祭り・行事を撮影したビデオも御覧頂けます。また、展示室の一角の「昔のくらしくらベコーナー」では、親子で昭和の暮らしを体験できます。是非民俗展示室にお越しください。

(常設展示担当：服部 武)



昔のくらしくらベコーナー



学芸員のおと 博物館のユニバーサルデザイン

当館はミッション（使命）の一つに「埼玉の歴史や民俗に関する資料を核にして、県民が集い、交流し、活動する、やすらぎと潤いのある快適空間を提供します」を掲げています。このミッションを進める上で最も大切な考え方が、博物館のユニバーサルデザインです。ユニバーサルデザインとは、ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス博士が提唱した、「できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにする」という考え方です。

その考え方には「1 どんな人でも公平に使える、2 使う上で自由度が高い、3 使い方が簡単ですぐにわかる、4 必要な情報がすぐにわかる、5 使う時に安全、安心である、6 使用中身体への負担が少ない、7 だれにでも使える大きさ、広さがある」という7つの原則があります。埼玉県では、「ハートいっぱい・さいたま」の標語の下、あらゆる施設、製品、情報のユニバーサルデザインを推進しています。

さて、当館のユニバーサルデザインの状況はどうでしょうか。先ず、施設の面ですが、展示室をつなぐエレベーターや幼児コーナーの設置などを行ってきましたが、昨年の大規模改修工事では、エントランスホールの照明を明るく改修し、トイレのリニューアルと車椅子対応の多目的トイレの設置を行い、案内板の表示も分かりやすく改善しました。中でも、トイレは明るくきれいになり評判が良いようです。しかし、休憩コーナーからエントランスホール及び講堂、地下トイレへ降りる階段にスロープが無いなど課題も残っています。

展示の面ではどうでしょうか。常設展示や特別展示の資料説明の字を大きくし、できるだけふりがなを付け読みやすくしました。民俗展示室には映像解説「埼玉の民俗ミニシアター」やハンズオン展示コーナーもあります。また、新装オープンした「ゆめ・体験ひろば」では、「誰もが主役になれる博物館」を目指して、ハンズオンキットを楽しむ「自由自在座」、藍の絞り染めハンカチ作りなどの「ものづくり工房」、屋外自由空間の「昭和の原っぱ」を設けました。

施設や展示以上に重要な面が、魅力ある事業の実施と来館者への対応です。この面では、「博物館の見える化」として、館内に来館者の声を聴くアンケート箱やイベント情報の案内板を設置し、学芸員によるミュージアムトーク、仕事紹介のコーナーも設けました。さらに、ボランティア制度を設け、体験学習と展示解説のボランティア100余名が博物館活動に加わり、来館者サービスに重要な役割を果たしています。また、博物館の支援、協力者として、博物館友の会も組織され、300余名の会員の方が博物館活動に関わっています。このように、多くの人々の協力を得ながら、開かれた博物館づくりに努めています。

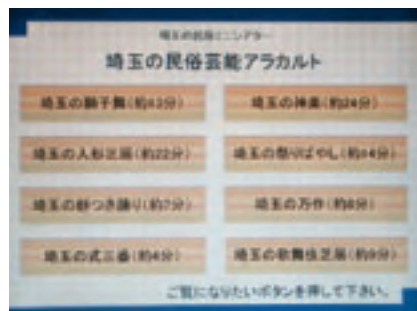
しかし、来館者のアンケートには、展示室が暗い、展示の説明や解説が難しい、順路が分かりにくい、職員の対応が悪いなどの意見が寄せられることがあります。できるだけ多くの人々が利用する、魅力的な博物館とするために、博物館のユニバーサルデザインをさらに推進することが必要だと思います。（副館長 宮崎 朝雄）



学芸員のミュージアムトーク、仕事紹介コーナー



展示解説ボランティアコーナー



民俗ミニシアター

歴史のしおり

「土馬」について

土馬を知っていますか？

土馬とは、右の図のような古墳時代から奈良・平安時代にかけて手捏てづくねで作られた、素焼きの15cmほどの大きさの馬の形をしたものです。

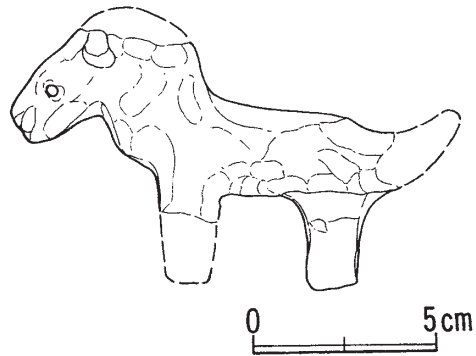
今回紹介する土馬は昭和53年に深谷市割山遺跡の発掘調査で1点だけ出土したものです。割山遺跡からは昭和37年に発掘調査されたものを含め、全部で17基の埴輪を焼いた窯跡が見つっています。窯跡からは、たくさんの円筒埴輪の破片が出土し、ほかに人物・馬・楯・鞆ゆぎ（矢を納める道具）などの埴輪が出土しました。恐らくこれらの窯で焼かれた埴輪は周辺の古墳を造る時に供給されて立て並べられたものと思われる。

この土馬は埴輪を作るときの、原料となる粘土を採掘した、粘土採掘場から発見されました。

馬は我が国では、恐らく古墳時代になって登場し、それをかたどった馬形埴輪は全国各地の古墳、特に関東地方の古墳から多く発見されています。

近年、群馬県高崎市保渡田八幡塚古墳などの発掘調査で多数の埴輪がまとまって発見されています。それらを見ると、盛装した男子人物埴輪、鬘まげを結った女子人物埴輪、それを護衛する鎧よろい甲かぶとを身につけた武人埴輪が並んで古墳の葬儀の様子を表現し、それとともに、鞍くらや鎧あぶみ、鈴などの飾りをつけた馬形埴輪がいくつも並んで葬列を構成していました。馬は当時非常に貴重でしたから、それを飾り立てて、何頭も古墳のまつりに使用できた古墳の被葬者の財力を物語っているようです。

では土馬はどのようなものだったのでしょうか。埼玉県内では土馬の出土例は割山遺跡以外にはないのですが、似たような例があります。熊谷市別府湯殿神社裏遺跡は、近くの崖面に湧水があり、石で造られた勾玉・剣形品・櫛形など150点の模造品とともに、馬形の模造品が出土しています。これは10cm前後の平たい石に馬の首の形を削りだしたもので、四肢が省略され、今回紹介する土馬が写実的・立体的に造られている点とはかなり



深谷市割山遺跡出土の土馬実測図

異なっていますが、実際の馬の代わりにこのような形代かたしろが作られ祭祀に使われたようです。この遺跡は古墳時代末から平安時代にかけての、雨乞いなどを行った祭祀跡とされています。

また、最近国内で遺跡から出土した土馬を集成した研究報告がされています。これによれば、土馬は古墳時代から平安時代にかけての遺跡から発見され、その多くは小さな河川や平城京などの宮都の溝から土師器や須恵器とともに発見されています。これらの土馬は水に関する祭祀に使用されたものと考えられ、古代の人々が様々な供え物と土馬を水神に捧げて雨乞いや五穀豊穰などを祈願したものではないかと思われます。

割山遺跡の例は、埴輪を製作した遺跡の粘土採掘場から発見されたものであり、類例を探すといくつか須恵器などを焼いた窯周辺からの出土例や古墳から発見される例もあり、土馬は何らかの祭祀に使われたものと思われる。

馬を雨乞いのために水神に捧げるといった風習は古くから汎世界的に行われており、それが古墳時代になって馬文化とともに我が国にもたらされ、土馬や石製馬形模造品となり、その名残は現在も神社に神馬を奉獻したり、絵馬を神社に奉納して受験合格を祈願するといった、私たちの身近なところに残されているようです。

(資料調査担当 大和 修)

ゆめ・体験ひろば

この1年(2年目)

平成19年3月24日にオープンしました「ゆめ・体験ひろば」も、早いもので2年が経過しました。今年4月から12月までの9か月間に訪れていただいたお客様は27,000人余りの方々と、皆さん楽しく過ごしていただきました。その間、うまくいったことや失敗したことなど試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ前進してきました。そうしていくつもの体験メニューを通して多くのお客様と出会ってきました。その一年を振り返ってみます。

体験メニューの一番人気は、まが玉作りです(写真1)。実に4,000人を超える方々が、まが玉作りにチャレンジしました。藍染めハンカチ作りは、2,300人余りの方々と。ジャパンプルーと呼ばれる上品で味わいのある紺色のハンカチが、数多く染め上げられました。

江戸組紐ストラップ作りは、かくれた人気メニューです。色とりどりの700本の組紐が編み上げられ(写真2)、ストラップとしての使命を授かりました。ほかにも、絵巻物作り、浮世絵はがきづくりなど多くの方々に楽しんでいただきました。

さて、新しい体験メニューも続々と登場しています。なかでも「今月のミニアート」は、12月上旬までの累計で、350セット以上を売り上げている人気メ

ニューとなりました。約12×14cmの型紙の上に季節の風物を折り紙で表現した、極めて芸術性の高い逸品です(写真3)。これまで創作された内容は、5月のこいのぼり、6月あじさいとでんでん虫、7月七夕、8月朝顔とうちわ、9月お月見、10月コスモスと赤とんぼ、11月は七五三ともみじ、12月はサンタクロースとクリスマスツリーなど15種類に上ります。

体験メニューには、通常のメニューとはほかに日を定めて実施している「ものづくり工房」オプションメニュー(事前申込)があります。これまでに、藍の型染めテーブルセンター作り、藍の型染めハンカチ作り(写真4)、ミニ団扇作り(写真5)、押絵羽子板作り(写真6)、江戸組紐帯締め作り、福熊手作りなど、13のメニューを実施してきました。

また、体験講座では「自由自在座」エリアを活用して鎧の着装、十二単の着装など普段では体験することのできない貴重な着装体験を実施しました。

これらの活動には多くの体験学習ボランティアさんに御協力をいただきました。12月末までに延べ980人余りの方々に御世話になりました。

(数字は4月から12月までの9か月間の累計)

(学習支援担当 伴瀬 宗一)



まが玉作り



江戸組紐作り



藍の型染めテーブルセンター作り



ミニ団扇作り完成記念写真



今月のミニアート

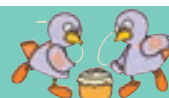


押絵羽子板作り

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（2月～3月）



埼玉県の
マスコット
コバトン

| | | | |
|------|---------------------------|----------------------------------|-------------|
| 2月 | 1日回 | 特別展「誕生 武蔵武士」展示解説* | 13:30～14:00 |
| | 8日回 | ミュージアムトーク「なつかしの銀座、あこがれの銀座」 | 13:30～14:00 |
| | 15日回 | 特別展「誕生 武蔵武士」展示解説* | 13:30～14:00 |
| | 20日金 | 博物館資料特別鑑賞会「工芸品の鑑賞 足軽胴」 | 10:30～12:00 |
| | 21日土 | 学芸員の仕事紹介「ゆめ・体験ひろば～藍染編～」 | 13:30～14:30 |
| | 28日土 | 特別体験事業「お雛子体験教室」 | 13:30～15:00 |
| 3月 | | 特別展「誕生 武蔵武士」展示解説* | 13:30～14:00 |
| | 7日土 | 特別体験事業「十二単の着装」**（2/7から電話受付） | 10:00～16:00 |
| | 8日回 | 「藍の型染め壁かけ作り」**（2/8から電話受付） | 10:00～16:00 |
| | | 特別展講演会「平将門の乱と武蔵国」（2/8から電話受付） | 13:30～15:00 |
| | | ミュージアムトーク「竹取物語」 | 13:30～14:00 |
| | 14日土 | 特別展講演会「源平内乱前夜の武蔵武士団」（2/14から電話受付） | 13:30～15:00 |
| | 15日回 | 特別展「誕生 武蔵武士」展示解説* | 13:30～14:00 |
| | 21日土 | 学芸員の仕事紹介「特別展のできるまで」 | 13:30～14:30 |
| 22日回 | 友の会講演会「堂宮大工に聞く『古建築の見どころ』」 | 13:30～15:00 | |

〈展示予告〉「新収集品展 2005～2007」

会期 平成21年3月28日（土）～5月31日（日）

平成17年度から19年度にかけて収集した資料を公開します。公開する資料は、忍藩俳人の浦水舎寸史が編集した絵入り句集「枝紅葉」（1738）や、寛文年間（1661～73）に刊行された絵入り製版本の「太平記」、明治末期から大正時代につくられた広告チラシのルーツともいえる「引札」、昭和初期の観光パンフレットなどです。

は事前予約が必要です。

毎週土曜日には、博物館のバックヤードを見学する「博物館裏方探検隊*（13:30～14:00）」を実施します。都合により開始時間が変更になる場合がございますので、事前に御確認の上お越しください。

*印のイベントへの参加は観覧料が、**印のイベントへの参加は参加費が必要です。

観覧料 常設展・特別展 一般600円 高校・大学生300円（1/31～3/15）

常設展 一般300円 高校・大学生150円（3/17～）

★中学生以下、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方はいずれも無料。



交通機関
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館（編集発行）

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL. 048-641-0890（管理）

048-645-8171（学芸）

FAX. 048-640-1964

<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.3-3（通巻）第9号
2009年1月29日発行